

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372101341		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	岡崎ケアセンターそよ風 2階		
所在地	愛知県岡崎市日名南町5-25		
自己評価作成日	平成27年8月29日	評価結果市町村受理日	平成27年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372101341-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372101341-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年9月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日帰りバス旅行を年2回、ご家族も参加されて行っています。皆様で楽しめるような場所を決めて、計画を立てて、観光バスで出掛けています。入居者様、ご家族様が毎回楽しまれています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームでは、年2回の外出行事の際には家族にも参加を呼び掛けており、多くの家族と一緒に外出を楽しむ取り組みが行われている。介護計画については、家族とは定期的な面談の機会がつけられており、要望等が計画に反映されるような取り組みが行われている。利用者の把握については、一人の利用者に複数の職員が担当する体制がつけられており、細かな情報の把握と職員間の共有ができるように取り組んでいる。職員間によるカンファレンス等の検討を重ねながら、日常的な食事作りや洗濯物たたみ等、利用者が日常生活の中で活動的に生活できるような働きかけが行われている。また、ホームはデイサービスを併設しており、ホームと合同で開催した夏祭りの際には、多くの方の参加が得られ、参加者にホームの取り組みを知ってもらうとともに、利用者との交流の機会にもつながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有できており、地域住民と交流をはかっている	法人の基本理念は変更されているが、ホームの「安心、喜び」と基本とした理念は変更になっていない。理念は、毎月のホーム便りにも掲載しており、家族に知ってもらうと共に、職員の振り返りにもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の店への買い物や外出をしている 行事への参加をしている	1階のデイサービスのフロアを地域の方に貸して会合等で利用してもらう取り組みが行われたり、ホームから地域の盆踊りに参加した際には、専用席を設けてもらっている。また、ホームで開催した夏祭りには、地域の方との交流にもつながっている。	地域の方の理解と協力を得ながら、前向きな交流が継続されている。デイサービスが併設される利点を活かし、地域の方に来てもらう取り組みを継続されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年、地域の人々に向けて夏祭りを実施している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議に参加されたご家族様、地域の方、包括支援センター、介護相談員の方の意見を聞き、日々のサービス向上に活かしている	会議には多くの家族の参加が得られており、ホームの取り組みを知ってもらいながら、家族間の交流にもつながっている。また、会議の参加者にホームの行事を見てもらう取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	長寿課、地域包括支援センター、介護相談員、グループホーム小部会の方との協力関係を築き、サービスの向上に積極的に取り組んでいる	市の介護事業所の連絡会に職員が出席したり、介護相談員の研修の受け入れを行ったり、担当部署との連携に前向きに取り組んでいる。また、地域包括支援センターが行う講習会の際には、講師で協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、全職員が拘束しないケアに取り組んでいる	ホームのエレベータが自由に動かす事ができる構造であるため、職員による利用者の見守りが行われている。職員による言葉遣いを含めた対応に関する社内研修の機会もつづられており、職員の振り返りの機会としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年一回は高齢者虐待防止関連法について研修を行い、全職員で意識を持って防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じた援助にて自立を支援している 成年後見制度が必要であると思われる場合には支援出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居退去時には十分な説明を行っている 改定時、新たに場を設け説明している 面会、運営推進会議などで話し、ご家族が理解、納得されている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置している 介護相談員の来訪、運営推進会議、面会時などで、意見、要望をお聞きする機会を設けている	年2回の日帰り旅行に家族と参加する取り組みを継続しており、多くの家族の参加が得られ、家族間の交流につなげている。意見や要望等は、ホーム管理者と施設のセンター長で対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便りの発行も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	GH会議、全体会議で提案、意見を出し合っている 日常的にも提案、意見を聞き、取り入れている	ユニット会議の際には、管理者の他にも事業所全体の統括を行っているセンター長も出席しており、現場からの意見等の把握と運営への反映に取り組んでいる。また、職員間で各種委員会を組織しており、前向きな意見等が出るような取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	やりがいはあるが、人員の問題の為、業務が多くなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人一人に合った研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	小部会に参加し、他グループホームとのネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの質の向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご家族から話を聞き、情報をもらう 入居直後にはご本人からも、困っていること、不安なこと、要望等の話を聞いたり、表情からくみ取るなどして関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族から話をじっくりお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入時にご本人とご家族にじっくり話をする機会を設け、まず必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の気持ちを最大限理解し、その時々にお互いが出来ることを行い、支え合って暮らしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に意見を聞き、ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と共に支援できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時に記念撮影をしたり、手紙の交換をしたり、電話で話したりなど自由に行えるように支援している	入居前からの知人との交流を継続している方がおり、ホームで交流する機会がつけられている。ホームでは、家族との交流の機会が複数回つけられており、家族との食事や買い物による外出の他にも、時には自宅に外泊して一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様が孤立することのないように、職員が間を取り持ち支え合えるように支援している 共通の話題を提供し、会話が弾むようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じご家族からの相談、要望に応えるようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意志を尊重し、暮らして頂けるよう努めている	利用者の把握を複数の職員で担当する体制がとられており、利用者の日常的な様子から、その方の思いや意向等を細かく把握するように取り組んでいる。把握した情報は、ユニット毎に行っているカンファレンスの場でも話し合わせ、共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らし方の情報をご家族、ご本人から収集し、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護支援経過記録、介護記録を記入し、職員間で共有している 又 朝夕の申し送りにて把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、介護計画に取り入れている	法人独自の様式である介護援助計画表も活用しながら、介護計画の見直しを6か月毎に行っている。日常的にも計画内容の項目に合わせて記録に残すように取り組んでおり、見直しに合わせて実施されるモニタリングにつなげている。	現状、モニタリングについては6か月毎に実施しているが、見直しまでの間にも実施することで、より変化に合わせた見直しにつながると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌、介護記録、介護支援経過記録を記入し、現状を把握して介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズの変化に対応して柔軟な支援やサービスの向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、ボランティア来訪での文化的催しに参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回協力内科医の往診を受けている 適時に協力歯科医の往診を受けている	協力医とは月2回の訪問診療の他にも、随時の連絡等が可能な関係が築かれている。受診は家族による対応を基本としているが、状況によりホームでも対応している。また、併設のデイサービスに複数の看護師が勤務しており、健康面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師に情報や気づきを相談し、指示を受け対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護サマリーを提供し、退院の際には診療情報提供書で情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	協力医、管理者、職員、家族間で十分話し合い、その結果を職員で共有し、職員全員で支援している	ホームでの看取り支援の実績はないが、看取りを見据えた支援については前向きな姿勢である。家族とは、利用者の状態等に応じた話し合いが行われており、意向に合わせた支援が実現できるような取り組みが継続されている。	ホームでの看取りを見据えた支援に前向きである。利用者、家族にとって安心して過ごしてもらうように、法人内の関連事業所での取り組み事例等、職員研修等の継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルを共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回地域の消防署と協力し、防災訓練を行っている	年2回の避難訓練の他にも夜間を想定した訓練も実施されている。併設事業所との合同の訓練や消防署の協力も得られている。また、ホームのオーナーを通じた地域の方との連携も行われている。また、ユニット毎に、水、食料等の備蓄の確保が行われている。	ホーム建物の年数が経過していることで、通報装置も旧式になってきている。職員間で装置の使用方法をはじめ、設備面の確認に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目線を合わせ、相手の表情を見ながら人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いをするようにしている	職員には認知症の方への基本的な理解を深めてもらうような指導が行われており、職員の対応で気になった際には、センター長や管理者からも注意喚起等が行われている。また、接遇面に関する内部研修の機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の話をよく聞き、自分の気持ちを表に出せるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを大切に、その日一日をどう過ごしていきたいかの希望に添って、暮らしを支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	二か月に一度移動理容美容室を利用している 本人の好みや季節に合った洋服を選べるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に献立を考えたり、調理、盛り付けなどを行っている 本人の意思を尊重し、行えることをお願いしている	メニューをユニット毎に職員で考えており、利用者の好みや嗜好への配慮も行われている。買い物に利用者とは出かけたり、調理への参加も行われている。また、ランチオンマットの活用や、食事の際には職員も同席し、会話を楽しみながら過ごすように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた献立にし、水分量を記録し、一人一人の体調に合わせて提供している 生活習慣病の方には、その方に応じた食事量を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い、一人一人の口腔状態を把握している 夜間は義歯の洗浄、除菌を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている	24時間シートも活用しながら利用者全員の排泄チェックを行っており、職員間での情報の共有につなげている。利用者の排泄状態等について留意すべき事項がある際には、ホワイトボードの活用も行われており、適切な排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食材の工夫、水分補給、運動、腹部マッサージを個々の必要性に応じて行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴時間帯は決めているが、一人一人が楽しんで入浴出来るよう支援している	ホームでは、ユニット毎に浴槽が2か所設置されており、毎日、全員の入浴が可能な体制がつくられている。時間についても夕方の実施も可能である。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の他にも、時にはバラの花を入れる楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、昼寝を取り入れたり、就寝前にはゆったりと過ごし、安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬手帳と処方箋を確認し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	楽しみ、喜びのある日々を過ごせるよう一人一人に合わせて役割や楽しみごとの支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や散歩など日常的な外出を支援している 四季を通じて外出レクを行い、年に2回、日帰りバス旅行を行っている	ホームでは、利用者が外出することができるように、買い物等を通じた外出支援が行われている。また、季節に合わせた外出行事が実施され、その際には家族にも参加を呼びかけており、多くの家族が参加した外出行事が実現している。	ホームでは、前向きな外出支援が行われているが、その方の行きたい場所等への外出が困難になっている。職員間でも前向きな意見も出されていることもあるため、今後の取り組みに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の力に合わせてお金を持ち、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じ電話をしたり、手紙のやり取りが行えるよう支援している 皆様が年賀状が出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や居間に季節の花や飾り付けをしている 居心地良く過せるよう、なじみの物を置いている	ホーム内は広くゆったりとした構造となっており、利用者が日中をリビングでのんびり過ごすことができる環境である。また、広く設計されている通路には、季節に合わせた飾り付けが行われたり、行事での様子が写真で掲示されてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファ席、テーブル席があり、思い思いに過ぎて頂けるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族から話をじっくりお聞きしている本人が使い慣れた愛用の物を置くことで居心地良く過せるようにしている	居室には広い収納スペースが設置されてあることで、車椅子の方も居室を広く利用することができる。居室内にはテーブルとしても使用できる棚が設置されてあることで、その上にテレビを設置したり、家族との写真を飾ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入口に本人の写真を飾り分かりやすくしている 夜間安全にトイレに行けるよう日中も居室近くのトイレに行って頂くようにしている		